

授業科目名	教育実習	担当教員名	三上 聡子 石村 万寿美
必修/選択	必修(幼稚園教諭2種免許)	開講学年・学期	期間(年間開講数 1講座)
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	5単位
施行規則に定める科目区分等		授業方法/担当形態	演習・実習 / 共同
		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 幼稚園副総園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かして、幼児教育の現場での実例を多く取り上げて授業を行っている。/幼稚園園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。
授業の到達目標	<p>(1)事前指導・事後指導に関する事項：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。</p> <p>②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。</p> <p>(2)観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：幼児、児童および生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。</p> <p>②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。</p> <p>③教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。</p> <p>④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>(3)保育内容の指導及び学級経営に関する事項 ※幼稚園教諭：大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>②保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。</p> <p>③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</p> <p>④様々な活動の場面で適切に幼児と関わりあうことができる。</p> <p>(1)事前指導・事後指導に関する事項：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。</p> <p>②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。</p> <p>(2)観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：幼児、児童および生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。</p> <p>②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。</p> <p>③教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。</p> <p>④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>(3)保育内容の指導及び学級経営に関する事項 ※幼稚園教諭：大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>②保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。</p> <p>③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</p> <p>④様々な活動の場面で適切に幼児と関わりあうことができる。</p>		
授業の概要	幼稚園教育の意義と目標を理解する。1次年に2単位の教育実習に参加し、実習段階は、導入・基礎実習(見学・観察・短時間実習)として、保育現場で実際に子どもや保育者と関わりながら経験学習する。2年次には、2単位の総合実習(長時間実習・指導実習)として、保育活動と主体的に取り組み、今までに学んだ専門的知識・技能を基礎に、導入・基礎実習で得た保育への実習内容を総合して、幼児の指導にあたる。具体的には、長時間又は短時間の指導実習の複数的体験をねらいとし、指導を受ける実習園の実情に即して行われる。実習巡回においては、担当教員が巡回指導をする。		
テキスト	「実習ハンドブック」大阪教育福祉専門学校編著		
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)、「月刊 保育とカリキュラム」(ひかりのくに)		
成績評価の方法	事前の書類(オリエンテーション報告書等)提出の状況、実習中の状況(巡回指導時の状況も含む)、実習への出席状況、実習先からの実習評価、実習の記録の提出、事後に必要な書類提出(欠席届等)の状況、実習の記録の記述内容を以下の通りに評価する。 教育実習においては、実習園の評価点(65%)、事前指導、事後指導及び実習記録等の評価(35%)		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	V I D、教育実習「実習生の保育」		
第2回	実習心得、基礎的事項(Ⅰ) 実習の意義、実習履修計画		
第3回	実習心得、基礎的事項(Ⅱ) 実習生としての心得、留意事項		
第4回	実習心得、基礎的事項(Ⅲ) 実習記録の書き方		
第5回	実習心得、基礎的事項(Ⅳ) 教育実習の目的、内容 観察ポイント、自己点検		
第6回	実習段階「導入・基礎実習」(Ⅰ) 研究課題、自己点検		
第7回	実習段階「導入・基礎実習」(Ⅱ) 指導案作成の留意事項		

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第8回	実習段階「導入・基礎実習」(Ⅲ) 指導実習の留意事項 【導入基礎実習】(1)幼稚園現場を理解する (2)園児の生活の流れを理解する (3)保育者に学ぶ (4)短時間の指導実習 (5)短時間の指導実習のプロセス (6)実習の指導案 ○実施時期・期間：1年 10月・10日間 ○対象児：3歳児	
第9回	教育実習（導入・基礎実習）の振り返り	
第10回	教育実習（導入・基礎実習）の自己反省	
第11回	実習段階「総合実習Ⅰ」(Ⅰ) 研究課題、自己点検	
第12回	実習段階「総合実習Ⅱ」(Ⅱ) 指導案作成の配慮事項	
第13回	実習段階「総合実習Ⅱ」(Ⅲ) 指導実習の配慮事項 【総合実習】 (1)長時間の指導実習 (5)日の指導計画(日案)作成の留意点 (6)指導の展開 ○実施時期・期間：2年 6月・10日間 ○対象児：3～5歳児	
第14回	教育実習（総合実習）の振り返り	
第15回	教育実習（総合実習）の自己反省	
定期試験	定期試験は実施しない	